

笠間市の友好都市③

植芝 盛平翁

～開拓の地で合気道の基礎を確立～

北海道

遠 軽 町



遠軽町は、平成 17 年 10 月に旧遠軽町を含む 3 町 1 村が合併して新「遠軽町」となりました。北海道の東北部の内陸に位置し、大雪山系をはじめとする雄大な山々に囲まれた緑と豊かな自然に恵まれた町です。

町を貫流してオホーツク海に下る河川や多数の支流が合流し、そこに広がる肥よくな台地は、開拓当初から農耕地に適した環境にあり、農業や林業を中心に今日まで繁栄してきました。

気候は、亜寒帯低温乾燥地帯に属していますが、オホーツク海沿岸から 20 km ほどしか離れていないため、オホーツク海型気候地域の特色も持っています。梅雨や台風の影響を受けることが少なく、北海道東北部にありながら、年間を通して比較的温帯で暮らしやすい地域となっています。

町の基幹産業は農業と林業で、農業全体の 8 割を占める酪農と小規模な畑作が中心になっています。

交通は、JR 石北線のほか国道 2 路線が町を縦横断しているほか、高規格幹線道路や地域高規格道路の高速交通網の整備が進められており、交通の要衝ともなっています。また、医療や福祉、商業など、様々な面で周辺地域の中心的な役割を担っています。

植芝盛平翁とのかかわり

明治 45 年（1912 年）、植芝盛平翁率いる紀州団体 54 戸（80 人余り）が旧白滝村（現在の遠軽町）に入植し、これが村の開基となりました。盛平翁は、厳しい自然条件の中での開拓の傍ら武道の修行に励み、日本古来の伝統柔術の流れの中から「合気道」の基礎となる部分を確立したと伝えられています。また、盛平翁は、8 年間の白滝村での在村中、村議会議員として地域の発展に尽力しました。

同町の白滝柔剣道場の床の間には、日本に現存する翁直筆の「掛け軸」2 幅のうちの一つが掛けられているほか、白滝郷土館には、開拓当時に翁が好んで携帯した「鉄扇」が展示されています。

遠軽町（えんがるちょう）のデータ

- 面積…………… 1,332.32 k m²
- 人口…………… 23,185 人（平成 20 年 4 月末現在）
- 世帯数…………… 10,894 世帯（平成 20 年 4 月末現在）
- 合併による町制施行日…………… 平成 17 年 10 月 1 日
- 所在地…………… 北海道紋別郡遠軽町 1 条通北 3 丁目 1 - 1

【町章の由来】

外側の星型は北海道の北見国を北斗星で表し、その中央に三つの輪を配して、真ん中の輪を「天の時」、右を「地の利」、左を「人の和」としました。地方自治体の基本は、三和主義による理想郷にあることを意味したものです。



木のおもちファーム

遠軽町冬スポーツ大会



【左】ゆかりの地記念碑 【右】 植芝翁の掛け軸